![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　令和２年度１０月号（20201009）

園長　平澤　正則

自主自立のために

　日本学術会議新会員候補6名の任命が時の内閣により拒否されたというニュース，なんか危ないなあと思う人は少なくないと思います。この学会には特別の独立権があるのにそこに行政機関が口をはさんだとの論がある一方，この学会の維持・運営には4兆円超の国のお金が使われているのだから国の運営責任者がものを言うのは当然だという論もあります。様々な論がメディア等から流れてきますが，私たちも無関心ではマズイと感じています。一園長が何を大仰なとか，園長もヒマなんだろうね，などと云われるのを覚悟の上でこの稿を書いています。

　戦争は嫌だとか，戦いは不毛だとかよく耳にはします。こういうとこれも大げさだといわれそうですが，はじめの一歩はアリの一穴からなんですね。世の大衆の考えの流れを形作っていくのはその時々のお偉いさん方なのです。そのお偉いさんの一角が崩されそうな（外見はまだ一穴のようには見えますが）状況です。小学校高学年くらいになると世の中で一番偉い人はだれ？と尋ねるようになります。多くの人は内閣総理大臣だと答えます。その時「最高裁長官と両院議長と内閣総理大臣の4人です。」と答えるといいのではと私は思います。4人もいては結局バラバラで喧嘩になりそうだとの考えも聞こえてきそうですが，4人がお互いに敬意を払いつつ悩み続ける状態こそが必要だと思います。その状態（民主主義）こそが健全であると思います。自分やその仲間など一部の考えにこだわって失敗してきた（戦争などの争いごとをしてきた），有史以来合計で何億人という人が犠牲になっている歴史が人間にはあるのですから。

　さて，問題はここからです。なぜそんなことを幼稚園の園長が言うのかですが，子どもたちはいつか子どもでなくなる日が来るからです。その時になって急にこれからは大人の勉強をしていきましょうでは遅いのです。わからないことを分かったように言う大人はだめです。間違った情報を子どもに与えることになりますから。私自身も父親の間違った情報によりこれまで何度か恥ずかしい思いをしてきた一人です。日本学術会議のことも詳しく知る必要はないと思います。が，そんなことは私たちの生活に関係ないとか，そんなことには興味がないなどと大人が発信していては子どもがいろいろと想像し，様々な思いを巡らす創造の始まりの機会を奪うことにつながります。

小学校の社会科では三権分立とか行政などという言葉を学びますが，こういう一般社会に必要な基礎的な生きる力は，実は家庭内の日頃の生活の中で養われるべき素養なのです。テストで点数を取るために学校で暗記すればよいというものでは絶対にありません。しかし残念ながら，その意識の低い人が増え続けた結果（と私は思っているのですが），選挙には行かないとか、今回のことでいえば国や学者のことに自分は関係ないと高を括る人は少なからずいるのではないかと不安です。10年か20年のうちに世の中がひっくり返るような事態は起きないかもしれません（そう期待するしかありません）が，皆さんの子どもや孫たちが世の中の中心となる時代まで自由に物事を考え行動できる民主主義の時代が続くかは不安です。

　論点を戻します。自主自立ばかりではありませんが，大人が望む子どもの成長にはその環境が大きくかかわります。普段子どもに何と言っているか，普段子どもにどういう背中を見せているか，普段あなたはどう生きているか。またまた大袈裟になってきましたが，しかし，それこそが大切です。間違えないでください。決して格好つけて生きろと言っているわけではありません。誠実に，自分にできることをがんばって，生きましょうと言いたいだけです。その小さな努力が子どもたちの未来の助けになると思うのです。